

第3回 産業遺産情報センターに関する検討会 議事要旨（案）

○日 時：平成29年11月10日（金）10時30分～12時00分

○場 所：永田町合同庁舎 7階特別会議室

○出席者：工藤座長、伊東委員、小野寺委員、後藤委員、松岡委員

1 開 会

冒頭、河村室長（産業遺産の世界遺産登録推進室）より挨拶があった。

2 議 事

（1）第2回検討会議事要旨（案）について

資料1について事務局から委員に内容の確認を求め、（案）のとおり了承された。

（2）産業遺産情報センターの在り方等について（第一次報告書）（案）について

資料2及び参考2に基づき事務局から説明があり、インタープリテーション戦略（案）に関する部分については確定後の文言に修正することを前提として、（案）のとおり了承された。

【主な意見等】

○来場者の減少を防ぐためには、どのようなコンテキストで全体を見せるのかが重要で、そのためにはエビデンスを揃える必要がある。また、それらを見せていく仕組みがないと、いくら整備をしてもなかなか持続しないおそれがある。

○第1回検討会においても、日本の産業史やその成果を把握できる場が不足しているとの意見があった。産業遺産情報センターにおいてそれらが集約されれば、各地に伝わるし我々も発信しやすくなる。「明治日本の産業革命遺産」を中心とした産業史の位置付けを述べやすくなることで研究も進むと思う。

○研究の目的として資料を集めるのはやはり大切だが、それに関心があるのは研究者である。しかしながら、研究者以外に目を向けた場合、専門的なことを伝えてもなかなか関心を持ってもらえない。専門的なことを上手く伝えられるインタープリターが必要であり、それをどう育成するか。単純にものだけを見せることでは難しい。

○こういった際に欠けがちなのが、いかに質感を伝えるかということ。画像などを見ても伝わらないので、質感を伝えられる手段を考えないとインフォメーションセンターを作る意味が薄まってしまうのではないか。

○産業遺産情報センターの魅力を高めるためには、歴史だけではなく、その分野

の現代部分も扱うことが有効。例えば科学の場合、子供に対しては現代の受けが良い。それを目当てに学びに来た子供に歴史も伝えるのが一般的。科学と歴史と現代を融合させることでリピーターが見込める。現代部分から入り、科学は発展のツリーの上にあることを学んでほしい。歴史に学んで現代の技術や環境についても考えることができるようなセンターになるのが理想。

○センターの機能とその中心をどこに据えるかについては、これから様々な観点から議論していくべき。まずは23の構成資産に蓄積されてきた、あるいはこれから蓄積すべきものの情報を集めていくこと、それを発信できる場にしていくこと、という点では皆の意見が共通している。

(3) その他

資料については全て公表することで了承された。

3 閉 会

次回検討会は、具体的な展示内容について検討を進める際に開催する予定であることを確認して閉会した。